

○5番（前田せつよ）

おはようございます。5番議員、前田せつよでございます。通告に従いまして、2項目の質問をさせていただきます。

1項目、高齢者肺炎球菌ワクチンを公費助成に。

高齢者の健康を守るため、肺炎球菌ワクチンの公費助成制度の導入を提案したいと思います。肺炎球菌は、健康な人の鼻の奥やのどによく見つかるものの、病状に出ないことが多く、高齢者になってくると体内に侵入しやすくなり、肺炎や髄膜炎、菌血症、これは敗血症でございますが、などの症状をもたらし、重症化することが多くあります。このうち肺炎は日本人の死因の第4位を占めております。高齢者は肺炎で年間11万人が命を落としている現状でございます。その予防に有効とされる成人用の肺炎球菌ワクチン接種を公費助成する自治体がふえております。高齢者などを対象にした成人用の肺炎球菌ワクチンは1988年、24年前に承認され、近隣では、松田町と中井町が公費助成を行っております。

我が国において認められている肺炎球菌ワクチン接種への保険適用というのは、現在、脾臓を摘出した患者における肺炎球菌感染予防のみで、それ以外接種に関しては、全額自己負担になっております。肺炎球菌ワクチン接種費用は、自由診療であるため、おおむね6,000円から9,000円程度かかりますので、年金暮らしの高齢者には大きな負担となります。1回の肺炎球菌ワクチン接種は、5年以上の効果が持続し、公費助成を行った自治体では、国民健康保険の医療費が減少する効果も見られ費用対効果も大きいと考えます。

本町において、この肺炎球菌ワクチン費用の公費助成制度導入の取り組みについてのお考えをお伺いいたします。

以上、壇上での質問とさせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

前田議員の質問にお答えします。人口の高齢化により、肺炎による死亡率はふえ続け、肺炎による死亡者の95%、65歳以上が占め、肺炎による死亡率は年齢とともに高くなっております。肺炎は、日本人の死因の第4位ですが、肺炎による死亡率は、特に75歳以上で、男女とも、急激な増加が見られます。肺炎によく見られる症状としては、発熱や寒気、たんを伴うせき、38度以上の高熱などがありますが、高齢者は、体力や免疫の働きが低下しているため、肺炎に感染しやすく、典型的な症状が出にくいことが多く、発見がおくれ、重症化しやすいと言われております。特に肺炎にかかりやすく、重症化しやすいと言われる方は、高齢者や糖尿病、心不全、慢性腎不全、肝硬変等の病気のある方、喫煙者や、大量飲酒者、アルコール依存の方、乳幼児のお子さんなどだそうです。

日常生活で感染する肺炎の原因の第1位が肺炎球菌によるもので、肺炎球菌による肺炎は、4分の1から3分の1を占めると言われております。現在、成人の肺炎

球菌ワクチンは、任意接種であり、本人の希望により接種する予防接種であります。ただし、2歳以上の脾臓を摘出した方は、健康保険の適用になっております。

国は現在、予防接種の見直しを実施しており、定期接種となっていないワクチンについて、調査、研究を行っております。

厚生科学審議会、感染症分科会、予防接種部会、ワクチン評価に関する小委員会報告書の中で、成人の肺炎球菌に関して、諸外国では、ワクチン接種により、肺炎球菌による肺炎の重症度及び死亡率を優位に低下させるが、肺炎そのものの発症を予防する効果は見られなかったという報告があります。

また、肺炎球菌ワクチンとインフルエンザワクチンの併用接種においては、入院頻度が低下することが期待できると報告もされております。成人の肺炎球菌ワクチンに対する、予防接種部会での総合的な評価では、疾病の影響、医療経済的な評価等を踏まえると、高齢者に対して、接種を促進していくことが望ましいワクチンであると報告もされております。また、入院や、死亡者数の減少にも効果があると言われております。安全性に関しては、20年以上の実績があり、安全性については、大きな問題は見られていない状況もあります。

近隣の状況としては、75歳以上の方を対象に、松田町は、平成23年10月から、中井町は平成24年度から公費助成を開始しております。県内を見ると、75歳以上の方を対象に、成人の肺炎球菌の公費助成を実施している市町村は、6市町村と少ない状況でもあります。

神奈川県と市町村、後期高齢者医療広域連合とで、医療保険事務改革検討協議会を開催しておりますが、その中でも、神奈川県内で統一した保険事業を展開できないかという声が出ております。今年度は、具体的に保健事業のワーキンググループを設置して、県が中心となり、検討を進めております。現段階では、肺炎球菌ワクチン事業も、一つの案として出されていますが、まだ検討段階であります。今後、検討案がまとまれば、平成25年度に国の補助金に対し、県が申請し、財源の確保に努めていく予定となっております。

開成町としては、今後は県市町村、後期高齢者医療広域連合、事務保健事務改革検討協議会や、国の動向に注視しながら、成人用肺炎球菌ワクチン費用の公費助成制度導入について、平成25年度予算化に向けて取り組んでいきたいと考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

再質問をさせていただきます。厚生労働省は、予防接種に関する検討会の初会合を8年前の2004年10月15日に開催をいたしました。その中で、努力義務のある定期検診として、肺炎球菌ワクチン、おたふく風邪などのワクチンを追加するように提案をいたしました。

また、2年前でございますが、三重県下で、肺炎球菌ワクチンなどの大規模な研究を行った結果が、国立病院機構三重病院の丸山貴也氏が発表されました。三重県内の介護施設23カ所、入居者1,006人を対象に、3年間の大規模な試験が行われ、その結果は、肺炎球菌性肺炎の発症を6割強減らし、しかも肺炎球菌ワクチンを接種した人の中で、肺炎球菌性肺炎で亡くなった人は一人もいなかったというものでございました。そのような予防効果の高さから、全国1,719自治体のうち、現在720を超える自治体が公費助成を行っています。今から7年前の2005年10月時点では、公費助成をしていたのが、全国でわずか九つの自治体でございましたが、平成23年度末には、660自治体になりました。そして、現在は全国自治体の約42%にのぼる720自治体が公費助成を行っております。

開成町でも、ワクチンを効果的に活用して、町民の健康向上と医療費削減のためにも、導入を先行的に願いたいと思います。

先ほどのご答弁では、25年度を目途にということでしたけれども、それに向かって具体的な準備と今後の町の取り組み方についてのお考えをお示し願いたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

保険健康課長。

○保険健康課長（田辺弘子）

お答えします。25年度予算化に向けてというところで、一応考えておりますけれども、開成町、平成22年度の年間の死亡者数というのは95名おりました、そのうち肺炎でお亡くなりになる方というのは、一応報告の中では5人いらっしゃるということで報告されております。その頻度的にも、5番目ぐらいに位置するところがございます。

あと国の前田議員さんおっしゃるように、国の報告書の中でも、成人の肺炎球菌に関して、定期予防接種に位置づけるべきであるというような報告の議論もされております。個人の発症であったり、重症化防止のために、ぜひ、予防接種を導入する方向が必要であろうということで、位置づけられているものでございます。この予防接種、一応重症化の予防と、入院を減少させる効果があって、全体的には、死亡数を減少させるというふうな報告書になっておりますので、25年度に向けて、開成町でも、一応予算を組むような形で、今後検討していきたいというふうに考えておりますけれども、今後、25年度の予算編成に関しては、今後の財政当局との調整も含めながら進めていきたいというふうに考えております。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

ただいま課長のほうから肺炎で亡くなられた方は5名ということで答弁をいただいたところでございますが、実は、肺炎は、大きく分けて院内肺炎とそれから、市中肺炎に分かれるというふうに聞いてございます。院内肺炎というのは、皆様も耳

にしております、病院内での肺炎でございますが、市中肺炎というのが、ふだん家庭にいながら肺炎になるということで、今、95名中5人という肺炎で亡くなった方の答弁の中で、肺炎からほかの病気に合併をするというような事例が多くあるので、直接的な死因は肺炎ということで、5名という数字がご回答いただいたのではないかと理解するところでございます。

先ほど私も、また、町長の答弁の中でもありました、近隣で2町が公費助成をしているということでございまして、実際、幾らの公費助成がなされているのか。また、それを参考にした形で開成町はやっていくのかというような、数字的なベースのお考えがございましたら、お示し願いたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

保険健康課長。

○保険健康課長（田辺弘子）

お答えします。松田町では、町長の答弁の中にもございましたように、23年10月から公費助成を行っております。一応自己負担が、松田町の場合は2,000円ということで、助成金が一応6,000円というような額になっております。

近隣ですと、あと中井町が、今年度、24年度から開始しているという状況になってございます。こちらのほうは、自己負担金が3,000円で、公費の助成金が5,000円というような金額になっています。

ただ、県内、今現在6市町村実施をしております、県央のほうに、一応実施している市町村、厚木市であったり、藤沢市であったりというところがございますけれども、県央の状況ですと、自己負担金が逆に5,000円程度で、公費の助成金が3,000円ということで、県央の公費助成の金額と、あと近隣の松田町、中井町の公費助成の金額は、ちょっと若干開きがあるというふうに認識をしております。

全体の1件の接種の契約単価としては、近隣では8,000円ということで聞いております。この公費助成を幾らぐらいにしていくかというところは、今後検討を進めて、決定をしていきたいというふうに思っております。

○議長（茅沼隆文）

保健福祉部長。

○保健福祉部長（草柳嘉孝）

少し補足をさせていただきたいと思います。近隣の中井町、松田町は、年齢的には75歳を超えるところで、そうしますと、後期高齢者医療のちょうど年齢と合致するわけであります。町としての基本的なスタンス的には、以前から同じ保険制度、医療制度の中でしたら、その中で後期高齢というのは、横浜から清川村まで一緒の制度ですから、本来的であれば、全33市町村ができれば一番いいわけであります。

そういった中で、先ほど町長の答弁にもありましたとおり、今、後期高齢の連合でも、神奈川県補助金、そういったところを目指して、全体でできないかというところも検討しているわけでありますけれども、確かに議員もおっしゃるとおり、医療費の、国の部会で効果があるということで認められているわけでありますから、

その辺について、前向きに考えていきたいと思っております。

特に国民健康保険については、開成町の医療費的には、23年度決算の中では、1人当たりの医療費というのは、31万円前後でありますけれども、それが後期高齢になった途端、神奈川県 averages の医療費は、一人当たり年間85万円程度でありますから、それだけ75を超えるとリスクが大きくなる。そういった中で、こういった肺炎球菌ワクチン等の接種によって、医療費が少しでも下がってくれば、最終的には開成町の、開成町の後期高齢者の広域連合に医療費の負担分を12分の1という割合で補助しているわけでありまして。それが全体的に言えば、8,000万円程度あるわけですから、そういったものも多少下がってくるわけですから、効果的には有効ではないかと、そのように考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

極端な事例かとは思いますが、一つ。北海道の一つの町の事例を紹介したいと思います。北海道せたな町というところが、肺炎球菌ワクチンを日本で初めて取り入れたところがございます。現在は、合併しまして、この形でのせたな町は存在をしておりませんが、平成13年9月から65歳以上の高齢者を対象に、国内で初めて肺炎球菌ワクチン接種への公費助成を始めたそうでございます。ここは北海道内での一番医療費がかさむということで悩んでいたところだそうでございます。そこで肺炎球菌ワクチンの接種の助成だけではなくて、そこにあわせて全町民を対象に、インフルエンザの予防接種を助成、そしてまた、住民健診として、ヘリコバクターピロリ菌検査というのも取り入れて、疾病予防対策を強力に進めた町でございます。

肺炎球菌ワクチンの公費助成を取り入れた、その3年後なんですけれども、国民健康保険一人当たりの医療費が30万円減ったということになったそうでございます。これはその当時、町の国保診療所の村上医師がかかわって、こういう数字が実績としてなされたということで、全国的にも話題になったと聞いております。

高齢者の死亡原因の上位を占めているこの肺炎でございますが、55%が肺炎球菌と言われて、かなり重篤な死亡に及ぶだろうというような状況に、危険性のある肺炎でございますけれども、戦後、しばらくの間は、肺炎というのは低迷していたんですけれども、実は抗生物質が効かなくなったりもして、近年は逆に高齢者の肺炎による死者数は、減るところか、現在は増加傾向にあるというような上り調子のグラフをそこかしこに目にする状態でございます。

少々医学的なお話になりまして恐縮でございますが、原因菌である肺炎球菌自体は、人の鼻の奥や気道に常に私たちも含めまして存在しておりまして、皆さんあるものだということがございます。健康なときは、まるで害を及ぼさないものの、風邪やインフルエンザで粘膜が荒れてくると、体内に侵入し、肺炎などの感染症を起

こしやすくなると考えられているようでございます。

また、65歳以上の方がインフルエンザにかかりますと、4人の1人の割合で肺炎を併発するというデータがあります。私の友人で、肺炎にかかったことのある高齢者の方々によりますと、初めは風邪だと思っていなかった。私に限って、肺炎にまでなるなんて思わなかった。だから友だちと会ったりして、肺炎を移してしまっただけですよ。本当に友だちにも気の毒なことをしてしまいました。私も大変な思いをしましたと語っておられたのが印象的でした。開成町におきましても、25年度を目途に、制度化されることを期待いたしたいと思っておりますけれども、お約束は町長、いただけますでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

最初の答弁でもお答えしましたとおり、予算を予算化していきたいと思っている。基本的な考え方として、やはり平成36年度をめどに、総合計画を今策定の中で、やはり開成町も高齢化率は25%、約4人に1人、全国は3人に1人ということで、開成町は高齢化率も低いんですけども、そういうふうな形で、予測はこの間、まちづくり集会でもお話をさせていただいておりますので、高齢化に対する対策としては、健康で、長生きをしてもらうためには、昨日の質問にもありましたけれども、健康増進計画、運動してもらうこと。もう一つ質問のありました、メタボ検診、受診率を上げていただいて、事前に発見する。予防が大きなこれからの対策として一番必要なことだと思うんですね。それが結果的には、高齢者の皆さんも、家族の皆さんも助かるし、町にとっても、医療費が減るということで、予防に対しては、これから重点的にやっていきたいということで、25年度をめどにやっていきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

確認のご答弁ありがとうございました。一刻も早く25年度をめどに、制度化されることを期待いたしまして、高齢者肺炎球菌ワクチンの公費助成についての質問はこれで終わりにしたいと思います。

次に、2項目を通告に従いまして、演壇より質問させていただきます。

初めて町役場に来られた方にもわかりやすい案内表示を。

平成22年3月まで総合窓口課が、町役場の玄関を入った目の前にあり、町民の皆様には大変に喜ばれておりました。その後なぜ、なくなってしまったのか、町民は大変に疑問に思っております。現在は、町役場の正面玄関を入ると、まず真っすぐの目線の先は自治活動応援課に向き、左手に目を移しますと、申請書類の記入台があり、その奥が税務窓口課でございます。町民の方からは「何だか気軽には聞きづらくて、どこに何課があるのかもよくわからなくて迷いますよ」との声があります。

町外から用事があって来られた方が「福祉課は」と、探していました。この建物内にはなく町民センター・保健センターにあり、また、その二つのセンターは同じ建物であることをお伝えすると「何度か来ているんですが、わかりづらいですね」とのことでした。

そこで町役場玄関ドアに、隣接する町民センター・保健センターを地図などで表示し、その建物内の担当課も明記するなど、わかりやすい案内表示の見直しが必要と考えます。また、庁舎内の担当課それぞれの課が1階の玄関エリアでもわかるような掲示も必要と思います。

初めて町役場に来られた方にもわかりやすい案内表示を速やかに設置などするべきと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

2項目の質問にお答えします。役場の組織については、平成22年度に機構改革を実施いたしました。この機構改革は、高齢化の進展に適切に対応できる保険事業の推進、文化、スポーツのまちづくりと共同のまちづくりの一体的な推進や、より町民目線に立ったサービスの向上を目指して実施したものです。玄関を入った正面には、新設の自治活動応援課を設置し、現在に至っております。

役場庁舎案内の案内表示の現状は、フロアごとに案内図を設置しており、課名ごとの表示プレートも設置をしております。しかし、議員のご指摘のとおり、役場庁舎では、町民センター、保健センターの地図表示、建物内の課名表示及び庁舎内にある課の表示が玄関エリアでわかる案内表示がありません。今後、南部地区の開発に伴い、町外からの転入者が増加すると予想されております。役場庁舎に初めて来庁される方のためにも、議員からご提案いただきました案内表示について、検討させていただくとともに、案内表示する内容及び設置する場所等を早期に検討し、設置をしていきたいと考えております。また、案内表示についても、来庁者が一目でわかる表示が重要であります。特に案内表示の文字の大きさや、図の配色等に配慮をしたもので表示をしていきたいと考えております。

最後に議員のご指摘がありましたが、職員に気楽に声をかけられない来庁者の方も多数いらっしゃると思います。まず職員が率先して、来庁者に対して積極的に声かけを行い、親切丁寧な対応を心がけ、さらに皆様に親近感を持っていただける役場を目指していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

再質問をさせていただきます。開成町は、今後も新住民が増加する町であり、それに伴い、来庁者もふえることになっていきますが、ただいまは前向きなご答弁をいただきました。今後は、速やかに親切丁寧な案内表示の設置に取り組んでいただけるこ

とと理解をいたしました。

そこでいつごろまでに案内表示を実現できる形になるのか、お答えをお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

総務課長。

○総務課長（小宮好徳）

それでは、お答えしたいと思います。先ほど町長答弁にありましたように、早期にということで対処させていただきたいと思いますが、基本的には、手づくりというのは、ちょっとおかしいんですけども、費用をかけないで行いたいと思いますので、準備ができ次第、やりたいと思っていますので、よろしくをお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

手づくりということで、ご苦勞をおかけしますが、よろしくお願いをいたします。

次に、役場に来られた方々への親切な案内の場面をどう考えるのかということについて、2点、お尋ねをいたしたいと思います。

1、町民の方が町職員に声をかけづらいということに対応するための対策として、押しボタン方式の呼び出しブザーを設置することについて、提案をいたしたいと思います。来庁者に御用のある方は、どうぞブザーを押してくださいと示し、受信した職員が、来庁者のもとへ気軽に足を運ぶことにより、相手の方へのホスピタリティ、すなわち温かくもてなすふるまいにも通じると考えますが、いかがでしょうか。

ところでブザーの費用については、町内二つの電気店に尋ねましたところ、簡易なものは数千円からあり、性能にすぐれているものでも、一對、ワンセット数万円ということだそうです。

実はこのような呼び出しブザーを設置している自治体では、山北町がテーブルといす、ダイニングセットですけれども、テーブルといすは。そこにブザーが一つ置かれて、それが一組となっておりますが、山北町役場1階ロビーには4組ありました。そのブザーには、二つのボタンがついており、赤いボタンは、急ぎ、緑色のボタンは呼び出しとなっております。費用をお尋ねいたしましたところ、テーブルといすとブザーをワンセットに四つのセット及び受信機設置などの工事費用を含めて、およそ40万円だったそうでございます。

このような呼び出しブザーを設置することは、町民の皆様に対して、便利で優しい行政サービスが提供できるのではないかと考えます。ブザーにも機能や種類がさまざまあるようでございますので、検討していただき、ぜひ、呼び出しブザーの導入に取り組まれることについてどんなお考えか、お尋ねをいたします。

○議長（茅沼隆文）

総務課長。

○総務課長（小宮好徳）

それでは質問にお答えさせていただきます。今、前田議員さんのほうから、ご提案いただきました押しボタン式のブザーということでございますけれども、まず、山北町と開成町ですね。フロアの大きさの違いがございます。ございますけれども、せっかく前田議員さんからご提案いただきましたので、その辺はうちのほうでも検討させていただいて、実際、山北町、ちょっとお伺いさせていただいて、その辺も見させていただいて、検討させていただきたいと思います。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

山北町は、確かにフロアも広うございますので、4セットうちの町は要らないと思います。1セットとなると、単純に計算しても10万円以内で済むのではないかなと思いますので、さっそく山北町においでいただきまして、前向きな取り組みをお願いをしたいと思います。

2点目、表示の問題として、庁舎の外にある掲示板について、お尋ねをいたします。町役場、玄関の右手と町民センター正面左手に、それぞれ一つずつ町の掲示板が設置されておりますが、これボックス型となっており、正式名称は掲示場と呼ばれ、広告式条例に伴い議決された条例などが随時掲示をされております。その二つの掲示板を眺めますと、ボックスの底は劣化し、めくれ上がっております。さらにボックスの表面は透明になっているところが割れて、テープで補強している状態となっております。

2点目といたしまして、これらの掲示場は、町民の皆様に情報を公開し、随時ごらんいただくという観点からも早急に修理などの対応が必要と考えますが、いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

総務課長。

○総務課長（小宮好徳）

それでは、お答えさせていただきます。役場玄関前に掲示場はあるんですけれども、これは大分前に、20年以上前に購入したものだと思いますけれども、基本的に劣化したときに、1回修理した経緯がございますけれども、現在、私も見たところ、先ほど前田議員さんのおっしゃるとおり、ガラスが割れて、テープが張ってあるという状況でございます。実際、役場玄関前でございますので、ご指摘されたことは当然だと思いますので、修繕等、新規購入、その辺を含めまして、検討させていただきたいと思います。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

行政推進部長。

○行政推進部長（芳山 忠）

補足させていただきます。前田議員のご質問の、前の点からの経緯ですけれども、ご趣旨は要は役場のいわゆる玄関の部分がわかりにくい。全体として余りきれいではないといったことが背景にあるんだろうというふうに推察いたします。ご指摘のとおり、直すべきものはきちんと直してわかりやすくするということは、早急に進めていきたいと思えます。

また、先ほどのブザーの件でございますけれども、山北町さん、非常に庁舎も大きくてゆったりしていらっしゃるということで、そういった形も可能なんだろうと思えます。

それともう一点大きく異なりますのは、いわゆる来客者の数が、やはり本町とはかなり違います。したがって、ブザーについて調査をさせていただくということは、総務課長の答弁のとおりでございますけれども、それ以外にも、いわゆる窓口職員の資質の向上ですとか、もっとかなり煩雑というか、混雑している時間帯等もありますけれども、そういった中で、ちょっと判断がつかなくなって、ここはどうなっているんだろうみたいなお客様もいらっしゃいますので、そういったところに早目に気がついて、声かけられるような、いわゆる職員の資質の向上といったものが早期に求められるのだろうというふうに考えられておりますので、その辺につきましても、研修等を通じて、向上に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

先ほど今までの質問したことに含めまして、部長のほうからもあわせて答弁をいただいたところでございますが、話戻りまして、ブザーの件でございますが、何度も申し上げるようで恐縮でございますが、一対だけあれば、数千円で済むことでございますので、職員の資質の向上、また、職員の皆さんが町民、もしくは来庁者を気にして、常にお仕事をしていただけるということは大変ありがたいことではございますが、仕事の効率化ですとかということも考えますと、ブザーの導入というのもありきではないかなということで、私が提案した次第でございますので、また、町行政の中でお考えをまとめていただいて、まずは一対だけ置いていただけるような方向でお願いしたいというふうに思うところでございます。

また、掲示場につきましては、早速に修理などの対応ということでございまして、それを含めた中で玄関、町の玄関といわれる町の庁舎、町民センター、保健センターをまずは整理整頓をしていってくださるというようなご答弁だったかと拝察するところでございます。

役場庁舎内外の環境を整えることは、どこに何があるのかも明確になると同時に、気持ちよく来庁していただき、また、町職員にとっても、心地よく仕事ができ、

効率が上がると考えます。先ほど来、掲示場を早急に修理というふうな取り組みをとっていただく一つ前に、掲示板の中に細かいことを申し上げて恐縮ですが、画鋏入れとか、画鋏がとか、張りだされた掲示物がぺらぺらとしていたりとかという形で、町民の方にとりまして、掲示場を眺めたときに、見やすい形で掲示もしていただきたくお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

総務課長。

○総務課長（小宮好徳）

済みません。ご指摘いただいたとおり、画鋏で張っているところがございますけれど、見やすいように整理整頓しまして、今後は対処したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

さまざま細かいことを申し上げましたけれども、全てやはり町民に対してよりよい行政サービスの向上ということでお含み取りいただきまして、さまざまご提案させていただきたいことに対しまして、早速の取り組みをしていただけるということで、また、よりよい町行政運営がなされることと期待をいたすところでございますが、町長、いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

言われることはすぐできることはすぐやりたいというのはもちろんあるのですが、先ほどの掲示板とか、ブザーの話も出ましたけれども、基本的には人が接して、職員がそれをやることによって、軽減にもなるんですけども、基本は気持ちよく職員の皆さんが町民を受け入れるというのを優先していきたいと思うので、そういった意味も含めて、職員の挨拶運動も今広めておりますので、職員の気持ちがお客さんを迎えるという気持ちに常にならえるような職員を育てていきたいと思っております。あわせてそれもやっていきますので、両方で、施設面とともに、職員の受け入れ態勢、両方やっていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願います。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

町長の答弁の中で、ハード面もソフト面もということで、相対的な形でいろいろ見ていきたいというお話だったかと思えます。ブザーが一つぐらいあることを期待いたしまして、よりよい今後も、町行政が運営かなされると、私は期待をいたしまして、私の質問、早いようでございますけれども、終わらせていただきます。